

# 秋田県児童会館の機能等の在り方検討委員会の検討状況について

## I 検討委員会設置目的

児童会館の使用目標年数は、60年となっており、今後約15年は使用することを前提としているが、建設から45年が経過し老朽化が進み、安全・安心な施設利用のための修繕が見込まれるなど、様々な課題への対応が必要となってきたことから、児童会館の遊び場と劇場機能の今後の在り方について検討する。

## II 施設概要（全体）

- 建設年 1980（昭和55年）
- 所在地 秋田市山王中島町1番2号
- 延床面積 5,672,70㎡／RC造
- 階数等 地上4階、地下1階
- 種別 大型児童館（A型）
- 施設概要 レクリエーションホール、木育ルーム、図書室、プラネタリウム、子ども劇場等
- 令和6年度の入場者 113,292人  
うち劇場入場者 28,965人

## III 検討経過

○「秋田県児童会館の機能等の在り方検討委員会」を設置し、各専門分野の委員10人により、県内における子どもの遊び場の整備の方向性について議論を重ねてきた。

- ・第1回全体会 令和7年7月7日
- ・遊び場部会及び劇場部会 9月25日
- ・第2回全体会 12月24日
- ・第3回全体会 令和8年3月25日

## IV 秋田県児童会館の機能等の在り方検討委員会報告書（案）

### 1 課題（P6～7）

- 建設から45年が経過し、施設の老朽化が著しく修繕等の多額のコストが発生している。
- 令和3年度の空調設備の更新により、木育ルーム、図書室等の個室にはエアコンが設置されているが、レクリエーションホールにはエアコンの設置がなく暑さ対策が課題となっている。
- 遊具等について、平成30年に木育ルームが新設されたが、レクリエーションホールの遊具は更新されていない。
- 現在のプラネタリウムの投影機は設置から14年が経過し不具合が発生しているが、更新には多額の費用が見込まれる。
- 劇場の舞台板の劣化により、主にダンス等の利用の際に木片による怪我等の報告がある。舞台板の張り替えには、多額の費用が見込まれている。
- 劇場のステージにはエアコンの設置がなく、照明の影響による夏場の暑さが指摘されている。照明をLED化した場合には、多額の費用が見込まれている。

### 2 遊び場に求められる役割・機能（P8～11）

#### （1）「全県一拠点」から「地域分散型」へのシフト

人口減少、特に子どもの数の急減という現実を踏まえ、従来の児童会館のような大規模な単一施設を新たに整備するのではなく、県内各地域に中小規模の施設を分散して整備することにより、利用者の利便性の向上を図るとともに、子育て環境に地域差を生じさせないことが求められる。

#### （2）遊び場に求められる機能

- ①全天候型：積雪時や猛暑にも対応できる屋内施設が望ましい。
- ②アクセシビリティ：十分な広さの駐車場を備えていること。子どもが自分で行けるような公共交通等によるアクセスも考慮する必要
- ③安全性とリスク、遊びのバランス：安全管理を徹底しつつ、子どもが挑戦し、危険を学ぶ機会となるような冒険遊びの要素。静的な遊びと動的な遊びの両方ができる空間の重要性
- ④多様性とインクルーシブ性：障がいの有無や年齢、体力差に関わらず誰もが遊べるインクルーシブな遊び場の重要性
- ⑤複合化と多機能性：遊び場のための整備ではなく、他の機能と組み合わせることで、施設の持続可能性と地域の貢献度を高める。保護者の休息や子育て相談の場にもなる機能も必要
- ⑥世代間・地域間交流：子どもと高齢者が自然に関われるような工夫が必要

#### （3）遊休施設の活用

三種町が旧山本農村環境改善センターを改修して開設した「三種町子育て交流施設みっしゅ」が人気になっている事例や、長崎県新上五島町で廃校の体育館を活用した事例などから、将来の秋田県の人口規模や人口減少に伴う財政規模の縮小を踏まえると遊休施設の活用は有効な選択肢である。



三種町子育て交流施設「みっしゅ」



「子ども未来交流センター」（長崎県新上五島町）令和7年4月20日に廃校となった小学校を改修して開設



# 秋田県児童会館の機能等の在り方検討委員会の検討状況について

## 3 秋田県児童会館の機能等の在り方（P13～14）

### （４）運営の工夫

#### ①住民参加の意義

長崎県新上五島町の先進事例では、住民が改修作業に参加することで、コスト削減、施設への愛着の意識の醸成につながった。

#### ②子どもが秋田の文化等を体験できる仕組み

地域の方（町内会や民生児童委員など）やボランティア、文化活動（民謡や茶道、華道など）の指導者と施設をコーディネートする仕組みが必要

### （５）児童会館における劇場機能の必要性

大型児童館（A型）の設置基準に劇場は含まれていないことから、不要または縮小が妥当であると考えられ、その理由は、次のとおりである。

#### ①役割の変化

秋田市内に類似施設が整備されたことで、子ども劇場の一定の役割は果たしたと考えられ、こどもに特化する必要性はない。

#### ②児童会館機能とのミスマッチ

利用者アンケートでは、「自由に遊ばせられる」「悪天候でも利用できる」といった遊び場としての機能が強みとして挙げられており、リソースは、遊び場に集中すべきである。

#### ③独立した施設としての実態

劇場と児童会館本体との機能的な連携が薄く、一般団体の利用も多いことから独立したホールとして利用されている。児童会館と劇場が繋がっていることの相乗効果はあまり見られない。

### （６）県・市町村の役割

#### ①県の主導的役割

県は、県全体の遊び場の質を向上させるための旗振り役を担うことが望まれる。

#### ②ガイドライン等（秋田モデル）の策定

県は、施設的设计プロセス、導入すべき機能、運営方法、評価・公開方法までを網羅した質の高いガイドライン的なものを作成し、市町村と共有することにより、県内どこでも一定水準以上の遊び場の整備につなげることが望まれる。

#### ③市町村間の調整と支援

県は、市町村がそれぞれ整備を進める際に、機能が重複しないよう、あるいは相互補完的になるよう調整役を果たすことが望まれる。

#### ④市町村の役割

市町村は、県が策定するガイドライン等を参考にしつつ、それぞれの地域の実情やニーズに合わせた遊び場を主体的に整備・運営することが望まれる。

#### ⑤市町村との連携

先進事例として「あきた芸術劇場ミルハス」等の事例があり、遊び場の整備についても選択肢の一つとして考えられる。

### （１）遊び場の在り方

- ・施設の使用目標年数は60年となっており、今後約15年は使用することを前提とする。
- ・人口減少、特にこどもの数の急減という現実を踏まえ、現在の児童会館のような大型施設を整備するのではなく、各地域に中小規模の施設を分散して整備することにより、こどもや子育て世帯の利便性の向上を図り、子育て環境の地域差をなくすことが適当である。
- ・遊び場の機能や立地については、冬季や雨天時にも遊べ、夏の猛暑にも対応できる全天候型の屋内施設であることや、車社会である現状を踏まえ、十分な駐車スペースを備え、また、大型バスも停車できるスペースがあることが望ましい。
- ・遊び場のデザインとしては、安全性とリスクのバランスが重要であり、安全管理を徹底しつつも、子どもが挑戦し、冒険遊びの機会を提供できることが大切である。
- ・障がいの有無や年齢、体力差に関わらず誰もが遊べるインクルーシブな遊び場や、静的な遊びと動的な遊びの両方ができるようなゾーニングが重要である。
- ・遊び場の整備に当たっては、他の機能と組み合わせることで持続可能な施設になることや、こどもと高齢者が自然に関わることができる工夫のほか、保護者の休息や子育ての相談の場となる機能も併せることが有効である。

### （２）劇場の在り方

- ・児童会館の機能として劇場を併設する必要性は低く、県内には「あきた芸術劇場ミルハス」をはじめとする代替施設が存在し、特に子ども劇場で利用の多い200人以下の小規模イベントは、これらの施設での対応が可能と考えられる。
- ・子ども劇場の利用実態をみると、一般団体利用が約半数近くを占めるとともに、子ども劇場で本番を行わないホール練習が多いことなど、施設本来の設置趣旨との乖離が見られる。
- ・本来の児童会館の核となるべき「こどもが安全・安心に遊べる場所」としての機能をいかに強化していくかが重要であり、児童会館における劇場機能の必要性は低い。
- ・現行の劇場は、残りの使用目標年数の約15年は、安全な利用を最優先にしながら活用すべきである。

### （３）おわりに

- ・県内では、各地域で遊び場の整備が進められているが、遊び場について検討を行う際には、本報告書等を参考に、こどもが身近な場所で安全・安心に多様な遊びを体験できる環境の整備が進められることを期待する。